

# 医薬品安全管理研修会 2016 年春季

テーマ： 医薬品の有害作用とリスク対策

会期： 2016 年 5 月 21 日(土)午後～22 日(日)  
会場： 東京大学法文 1 号館 25 番講堂。定数 700 名  
(東京都文京区本郷 7-3-1)

医薬品には既知/未知の重篤有害作用が存在する場合があります。本セミナーは、薬剤師および看護師がこれらの適切な対応を円滑にするために、関連する最新知識を提供するものです。  
参加者には受講証をお渡しします。

受講対象者： 国際医療リスクマネジメント学会ないし日本医療安全学会の会員、医薬品安全管理者、薬剤師、  
医師、看護師、医薬品製造・輸入・販売業者、その他

## プログラム

### 2016 年 5 月 21 日(土)午後

午後 1 時～午後 1 時 50 分 腎機能低下患者に対して保険薬局薬剤師のできること・やるべきこと  
竹内 裕紀 (東京薬科大学医療実務薬学教室准教授)

午後 2 時～午後 4 時 パネルディスカッション 「病院内医薬品安全管理の実際と課題」  
医薬品の安全管理体制と求められるガバナンス  
高田 伸夫 (東邦大学医療センター佐倉病院 医療安全管理室副室長)  
医薬品の安全使用に向けての看護部での取り組み  
新村美佐香 (菊名記念病院 医療安全管理室室長)  
病院における医薬品安全管理の実際  
生島五郎 (松戸市立病院 薬局長 医薬品安全管理責任者)

### 2016 年 5 月 22 日(日)

午前 9 時～午前 9 時 50 分 HIV 治療における薬剤師の対応 田中 博之 (東邦大学薬学部実践医療薬学研究室講師)

午前 10 時～午前 10 時 50 分 医薬品の適応外使用・疾病禁忌薬管理の問題と適正管理を考える  
木村 利美 (東京女子医科大学病院 薬剤部長)

午前 11 時～午後 12 時 保健薬局薬剤師がおこなうリスクマネジメントーヒトの認知機能からの解析も含めてー  
菅野 敦之 (明治薬科 大学臨床薬学部門/地域医療学研究室 准教授)

午後 1 時～午後 3 時 パネルディスカッション 「在宅医療における医薬品安全管理での薬局の現状と今後のあり方」  
在宅医療における薬物治療の問題と対策 高瀬 義昌 (医療法人社団至高会 たかせクリニック理事長)  
在宅医療における薬剤師の役割と STOP クライテリア処方の実態  
杉浦 伸一 (名大医学教育研究支援センタ医療行政学特任准教授)

地域包括ケアシステムにおける地域薬局の役割 榊原 幹夫 (公益財団法人 杉浦記念財団 事務局長)

**参加申込締め切り： 2016 年 5 月 16 日**

定数(600名)になり次第に、申込受付を閉め切ります。

参加申し込み方法： 下記のホームページをご覧ください。  
参加費を掲載しています。

**担当事務局**

国際医療リスクマネジメント学会本部  
(〒)113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102  
(電子メール) head.office01@iarmm.org  
(Tel/Fax) 03-3817-6770

ホームページ <http://www.iarmm.org/J/Drug2016May/>